

感染症法における新型コロナウイルス感染症の5類移行後の
集団フッ化物洗口のさらなる推進について

令和5年5月10日
一般社団法人日本口腔衛生学会

本年4月27日の[厚生科学審議会・感染症部会](#)の決定に基づき、5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行されました。

これまでの緊急事態宣言時には、フッ化物洗口が一時中断されるなどの事例も多くあったため、本学会では令和2年4月20日に「[新型コロナウイルス緊急事態宣言下における集団フッ化物洗口の実施について](#)」として、中断した場合の早急な再開が望まれることなどについて表明しました。

また、令和4年12月28日には、厚生労働省医政局長、健康局長連名で「[フッ化物洗口の推進に関する基本的な考え方](#)」が発出され、「[フッ化物洗口マニュアル\(2022年版\)](#)」に示されている通り、う蝕予防効果と安全性は確認されています。

新型コロナウイルス感染症の流行時には、子どもたちのう蝕が増加した可能性があります[1]。そして過去の日本における事例から、学校でのフッ化物洗口の間断により、予防できていたはずのう蝕が増加したことが示唆されています[2]。

フッ化物洗口は、施設で実施することで、経済的理由などで家庭でのフッ化物洗口ができない子どもたちにも恩恵をもたらします。フッ化物洗口を中断された市町村や施設におかれましては早急な再開のご検討をお願いします。さらに、未実施の市町村・施設におかれましても、あらためてフッ化物洗口開始のご検討をお願いします。

以上

1. Matsuyama Y, Isumi A, Doi S, Fujiwara T: **Impacts of the COVID-19 Pandemic Exposure on Child Dental Caries: Difference-in-Differences Analysis.** *Caries Res* 2022, 56(5-6):546-554.
2. Yamaguchi N, Saito T, Oho T, Sumi Y, Yamashita Y, Koga T: **Influence of the discontinuation of a school-based, supervised fluoride mouthrinsing programme on the prevalence of dental caries.** *Community Dent Health* 1997, 14(4):258-261.